

郵便振替＝00100-3-749814 名義「上島敏昭」

大道芸アジア月報 2020 年 9 月

vol. 31, no. 9

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>■お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com■東京都ヘブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※上記の大道芸スポットは、3 月より中止していましたが、8 月 1 日現在、次の場所で再開しているようです。

大阪パフォーマーライセンス：南港 ATC、大阪市立科学館前、服部緑地、花博記念公園、鶴見緑地、大阪城天守閣前・JO-TERRACE OSAKA

東京都ヘブンアーティスト：町田ターミナルプラザ、東京芸術劇場前、多摩動物公園駅前広場、江戸東京博物館

ヨコハマ大道芸：グランモール公園

江ノ島大道芸：平日のみ再開

★今月の大道芸公演

※新型コロナウイルス・パンデミックにより、多くの催しや公演が中止・延期になっています。HP などでご確認ください。

△開催《リモート》アートタウンつくば大道芸フェスティバル 2020 <https://arttowntsukuba.jimdofree.com/>

●8 月 30（日）14：00～20：00

加納真実、ブラックエレファント、STLTANGO、ココナッツ山本、KanauKnot、SUKE3&SYU、芸人まこと、

△第 45 回野毛大道芸【中止】 <http://daidoge.jp/> ○横浜市・野毛商店街

●9 月 12（土）13（日）

△開催大道芸オスピタパーティ in 宇都宮 ZERO <https://www.facebook.com/ospitaparty/> ○宇都宮バンバ市民広場

●9 月 12（土）13（日）

くす田くす博、紙磨呂、けん玉師 伊藤祐介、ボード山田、柳貴家起助、小さなサーカス団たらったらった（土のみ）、
バルーンパフォーマーさくら（日のみ）

△オンライン開催ヨルノハテ presents[マイムトウ 90's part2]～オンライン畑でつかまえて

●9 月 17（木）18（金）両日とも 19:00 より生配信

加納真実、バーバラ村田、堀江のぞみ、安田太朗、チャタ

【ゲスト】円盤屋たけし、Mr.BUNBUN

¥2500

申込み 9/18 19：00 https://streaming.zaiko.io/_item/3302749/19 19:00 https://streaming.zaiko.io/_item/330275△開催ダメじゃん小出の黒く塗れ vol.41 <http://nigiwaiza.yafjp.org/> ○横浜にぎわい座・のげシャレー（小ホール）

●9 月 19（土）昼の部 14：00 / 夜の部 18：00

¥2100（前売り）、¥2600（当日）

予約・問合せ：電話045-231-2515（横浜にぎわい座）

△開催まつもと街なかジャズフェスティバル <https://www.mpac.jp/event/35306/> ○松本駅前広場、松本城公園ほか

●9 月 19（土）12:00～19:30 少雨決行

長野県内在住者のみ来場可

チャラン・ポ・ランタン、HIBI★C チャラン・ポ・ランタン、HIBI★Chazz-K、MIKE'S JAZZ QARTET、ココチキット、サンキュー手塚、
OLD&NEW DREAM JAZZ ORCHESTRA、なつかよ、ブラックエレファント、NAO&WAGON brothers、加納真実、ココナッツ山本、
芸人まこと、Stiltango、SUKE3&SYU△開催モリコロパーク大道芸フェスティバル 2020 <https://mrkrddg.com/> ○愛・地球博記念公園モリコロパーク

●9月21(土祝)22(日)

アストロノーツ、AYACHYGAL、綾乃テン(※22日のみ)、オーバートーン、叶結(Kanauknot)、こ〜すけ、大道芸人ジーニー、Cyber Magician NOA、ジャグリングドラゴンヒョウガ、ゼロコ、大道芸人すごろく、CHIKI、エトランゼ、EntertainerHi2、つくもん、中村友美、フォーク曲げアーティスト Ryo(※20日、21日のみ)、リューセー、オマールえび、くす田くす博、Kei、健山、ココナツ山本(※20・21日のみ)、サンキュー手塚(※21・22日のみ)、ジョー次、物語人、Daggle KOMEI、clown レオ、ダンディふくちゃん、にじいろペイントラボ、Statue Kai(※20日21日のみ)、スティルバード(※22日のみ)、PerForMer ZEN、なごやエアリアルラボ、松本かなこ、バルーンパフォーマーASUKA、バルーンパフォーマ哲、風船おじさんてりやき、MAGICIAN HIROSHI、めぐみ梨華、油井ジョージワンマンバンド、YO-YO-Entertainer TOMMY、

△再開 亀戸大道芸 vol.21 <https://www.kameidodaidoge.com/> ○亀戸十三間通り商店街

●9月21(月)12:00~16:00

△SAPPORO PERFORMANCE PARTY 2020 【中止】 <https://sapporo-performance-party.jimdofree.com/>

●9月21(土祝)22(日) ○札幌駅前、札幌駅前地下歩行空間

出演：ロ・ボッサ、うちー、斉藤航、エクストリーム芹川、多治見大道芸見本市、くす田くす博、ポイ魔人、さやかーちゃん、NPO 法人中部大道芸ネットワーク、ECC ジュニア美香保教室、松波裕樹、E'zon music、出塚真司、SEI☆YA、しばたゆえ、石川更紗、大道芸人パッド、コバルちゃん、CREATIVE STUDIO、AKKI'S、小安美喜、はなえだ、日暮貴之、大道芸人ジーニー、RYO

△開催 ストレンジシード静岡 2020 the Park <http://strangeseed.info/> ○駿府城公園、静岡市役所、葵区役所ほか

●9月21(月・祝)22(火・祝)

演劇「乳水」鳥公園、演劇「タヌキから電話がかかってくる」ワワフラミンゴ、演劇「Team Walk」大熊隆太郎 (彦劇屋) & SPAC ストレンジチーム、ダンス「送り火」遠藤綾野、演劇「あの日の『あそび座』」あまる&ひっさい
オンライン配信もあり

△開催 第23回ながの大道芸フェスティバル <https://www.facebook.com/naganodaidougei/>

●9月26(土)11:00~18:00 ○長野市セントラルスクエア、TOIGO 広場

10組の大道芸人が出演、観客は「慎重な行動を呼びかけている都道府県」からは控えてください

Un-pa、GABEZ、加納真実、エンターテイナーHi2、健山、Booly Uooly Company、オペラララちゅうさん

△開催 高知大道芸フェス 2020 <https://www.facebook.com/DAIDOUGEI.KOCHI> ○高知市中心街

●10月3(土)10(日)

AYACHYGAL、KANA∞、加納真実、紙磨呂、桔梗ブラザーズ、シルヴブレ、SUKE3&SYU、ゼロコ、張海輪、フレディーノ、to R mansion、Performer SYO!、三雲いおり、山本光洋

△第43回大須大道町人まつり 【中止】 <http://autumn.nagoya-osu.com/chonin/> ○名古屋市大須観音、大須商店街界限

●10月10(土)11(日)

△開催 世田谷アートタウン 2020『三茶 de 大道芸』 <http://arttown.jp/archives/3977>

●10月17(土)18(日) ○世田谷パブリックシアター、シアタートラム、ほか

△開催 みんなであそぼ! 森と劇場のサーカスフェスタ

○練馬文化センター https://www.neribun.or.jp/event/detail_n.cgi?id=202008281598599785

●10月31(土)11:00 / 15:00

出演：ウンポコシスターズ(チカパン、京本千恵美)、沢入国際サーカス学校(天野真志〈イス倒立〉、目黒宏次〈テトラ〉、油布直樹〈シルホイール〉、鈴木仁〈シガーボックス〉、後藤大和〈ヨーヨー〉、横山千喜〈一輪車〉、松尾悠花〈コントーション〉、ムンドノーボぼこぼよ〜ダン(人形音楽大行進)

¥500(一般)、¥250(車イス)、友の会会員：¥450(一般)、¥225(車イス)

予約：電話03-3948-9000(練馬文化センター)

会場：練馬文化センター小ホール

a ワークショップ広場(練馬文化センター第二リハーサル室)

① ウッドシェーカーを作ろう(10:30~11:30) 参加費 ¥500

② 作って遊ぼう動物人形(13:00~13:45) 参加費 ¥500

b ワークショップ広場(練馬文化センター第一リハーサル室)

③ 人形と手話であそぼう(14:30~16:00) 参加費 ¥500

・おもちゃの展覧会 ぐるぐるサーカス(練馬文化センターギャラリー) 入場無料

△大道芸ワールドカップ in 静岡 【中止】 <https://daidoge.com/> ○静岡市駿河城公園、呉服町通り、ほか

●10月31(土)~11月3(火祝)

若林正の

食って極楽

散歩でみつけた浦和の町食堂

・・・「おすず」

前回ステイホームと言ったときながら、梅雨明けてからの真夏の陽射しに誘われて、週に一、二度は女房と散歩をしている。GoTo なんとかも年寄りの親がいると遠出も出来ずで、これがせめてもの慰めだ。とはいえ徒歩でこの暑さの中だから、行けるとこも知れたもの。

少し前に書いた浦和の日本茶カフェ「楽風」が行きつけになってしまった。マスターも暑い最中わざわざ蔵から歩いて来るかと驚いて顔を覚えてくれた。しかし今回は、そのカフェへの途中見つけた町食堂。

界限で名高い進学校、浦和第一女子高校の裏通りで、トンカツ定食¥480の看板を見つけて入ってみたのが「おすず」。写真載っけるが、他も安い！で、注文したのがアジフライ定食¥480。女房はしょうが焼定食¥480。それに冷奴¥(失念)を追加。



店内はこじんまりとテーブルが五つで、飯時はすぐに密になっちゃうなと心配。味はそれなりに美味だが、なにより店の雰囲気懐かしく心地よい。○今度は看板のトンカツ食わなくちゃ度＝3ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 346

コロナ禍中のサーカスバザール

上島敏昭

◆リニューアル記念公演

8月22日、23日の両日、埼玉県富士見市の富士見市民文化会館キラリふじみで、恒例となっている「サーカスバザール」公演が行われた。2002年オープンのこの文化会館は、メインホール(客席800の劇場)とマルチホール(可動式客席250のスタジオ)の二つのホールをもち、ほかにアトリエ、展示室、会議室などを備えた複合型の公共文化施設で、中庭がかなり広い池になっていて、その水面と周囲のガラス壁に陽光が複雑に反射して、館内はキラめき揺らめく光に満ちている。



「サーカスバザール」は文字通りサーカスをコンセプトとした催しで、もう十年ぐらいはつづいている、当館の夏の人気イベントで、全館あげてサーカスや大道芸、人形パレードなどで盛り上がる。ちなみに、われわれ浅草雑芸団も昨年出演させてもらっている。

コロナの影響で今年は中止だろうと思っていたところ、7月の中ごろから「公演する」という情報がながれてきて驚いた。前々から予定されていた5

か月間の改修工事を終えてリニューアル記念公演だという。大道芸やサーカス系の催しは、現在、ほとんど中止、もしくは無観客オンライン配信となっている。なにしろ一人でも関係者から感染者が出たら「即刻中止」となるし、政府や自治体から強い「中止要請」などがいつ出されるかわかったものではないので、そのリスクを考えたら、観客を集めての公演を主催するのは二の足を踏まざるをえない。公共施設でありながら、よく「やろう」と決めたものだ。

実際、7月から8月にかけて全国の感染者は拡大の一途。特に東京の感染者は連日数百人を数えている。公演が近づくにつれ、私はホントにできるのか、という思いと、なんとかやってほしいという思いが募っていった。

◆館内のコロナ対策

さて、いよいよ当日、朝10時過ぎに会館に到着すると、にぎやかに開催されていた。お客さんはつぎつぎと入口に向かっていく。その雰囲気は昨年までとあまり変わらない。それでも入館時には一人ひとり検温と手指アルコール消毒を施すので、館に入るのにけっこう時間がかかる。入口に並んで、わたしもその洗礼を受けて入場した。最近ではショッピングセンターや役所でも入館の際に同じ手続を踏まされるので、だいぶ慣れた。館内のロビーや通路には、ムンドノーボぼこブヨ〜ダン製作の人形が並んでいる。これも例年通りだが、昨年までは子供たちが触ったり、中に入ったり、ぐるぐる回したりしていたが、今年はコロナ対応で、「触らないで」という張り紙が付いて

いる。聞くと全部、自動的に動くように改良したのだという。そうか、触るのもいけないんだと気付く。お客さんも思ったより多いが、なによりスタッフの数が昨年よりずっと多いように思う。



この催しは、有料のサーカスショーと無料(投げ銭可)の大道芸系パフォーマンス、それに、ジャグリングや絵描きや工作のワークショップがある。そしてそうした芸能以外に地元の農家の直産品やお菓子屋さん、コーヒー屋さんの出店が並んでいるのが、いままでの特徴だった。その出店が並ぶあたりが「バザール」と名付けられた由縁なのだろうが、今年はこれがなくなっていた。コロナ対策で「館内での飲食禁止」なのだという。申し訳程度に、熱中症対策を口実にしてか、コーヒー屋さんは出ていたし、クッキーとおにぎりは売ってはいたが、飲食禁止ではなかなか買おうとは思わない。これは大いに残念だった。

◆ヴァラエティショー

無料のヴァラエティショーの入場がはじまった。無料ながら、氏名・住所・電話番号を書面で提出する。万が一への備えだが、面倒ではある。整理券は自分でもぎって半券を箱に入れる。これも触れ合わないための対策だ。なんだかもものしい。ホールに入ると客席は一席おき。演技スペースを十分とっているのが定員250ながら70数席で満席となっていた。客席ガラガラという印象だ。演者はさぞやりにくかろうと思ったが、いざ芸がはじまって、見ているうちにだんだん惹きこまれ、観客の少なさはあんまり感じなくなっていた。

内容は ヴァラエティショーといいながら、1970 年ごろの全共闘のファッションや図像などが全体を統一するイメージとなっていた。なんで全共闘(?)・・・理由はよくわからないが、反体制の学生らしき人物たち(金鳩団)は反コロナの活動家ということらしい。ただし、この舞台では全共闘は単なるファッションなので、底が浅い。時代錯誤、見当ちがいなどもふくめその軽薄さが、どこかしら郷愁があって、妙におかしい。面白かった。各演目もサーカスらしさは強調せず、大道芸っぽい、ゆるい、のんびりした雰囲気であって、包まれていた。出演者は3組。最初はサーカス学校生徒三人で、まずヨーヨー、つぎに一輪車、最後が輪転がしなどを曲芸に仕立てた独創的な作品。彼らは「勉強中」ではあるが、ヨーヨーや輪転がし作品はかなりの水準だった。とくに白塗りメイクに学生帽のコスチュームで寺山修司の「田園に死す」をモチーフにした曲芸の作品は、若い人がこんな作品を作るのかと、意外だった。二組目のパントマイムプロレスは、一人相撲の現代版。パントマイムといいながら、しゃべるしゃべる。一人で、見えない相手と戦いつつ(攻撃したり防御したり、技を掛けたり掛けられたり)、実況もするのだから、これは大変だ。冒頭のカップヌードル対決、締めくくりにはリンボーダンスまで加えて纏まりも良かった。最後はハンガーマンの一輪車。これも曲乗りを見せるのではなく、一輪車に乗ってジャンプを繰り返し、「サイトーくん」と名付けた

人形であそぶネタだけにしばって演じた。久しぶりに大道芸らしさを堪能した。



狂言まわしと全体の構成は金鳩団(天才イカレポンチ+ハンガーマン)と思われるが、サーカスとは対極の緊張感のなさ。このチームでは初めての活動らしいが、ジャグリングやパントマイムに偏りがちな大道芸の世界に、いままではなかった演劇系のチームで、場数を増やせばとても面白くなるように感じた。

◆サーカスショー

有料のサーカスショーは「七つのお気に入り」というタイトルが付けられていた。無料のヴァラエティショーと同様に、氏名、住所、電話番号を書面で提出して入場。今度は指定席となっていた。やはり一席おき。例年だと開幕前にクラウンが客席にあらわれ、子供たちにイタズラを仕掛けて客席をなごますのだが、今年はないだろうと思っていた。ところが開幕 5 分ぐらい前にクラウンが客席に登場して、帽子を落っこしたり、拾おうとして蹴飛ばしたりしはじめた。それを見てこどもたちは大喜びであった。まもなく音楽が聞こえたかと思うと、扉が開いてチンドン楽団を先頭にパフォーマーたちが客席に入場して、通路をパレードし始める。このあたりは、いつものサーカスに出会えたようで、わくわくして

くる。クラウンも彼らのパレードにまぎれて一緒になって舞台にあがっていく。いよいよサーカスの始まりだ。

出演は、ALK(空中アクロバット)、森田智博(ジャグリング)、油布直輝(シルホイール)、ナナとヨシキのクラウンコンビ・Tallatalatta、馬建楽(イス倒立)それにクラウンサクノキ。演奏は大熊ワタル率いるジンタらムータ。それぞれが自分の持ち芸を見せ、そのあいだをクラウンがつなぐという、古典的なサーカスの構成。ヴァラエティショーが出たところ勝負の即興と奇抜なアイデアでみせたのに対し、こちらは訓練の積み重ねで身につけた体力と技術をみせる舞台づくりである。この舞台のためだけに結集したチームだが、群馬県みどり市の沢入サーカス村に合宿して作り上げたらしい。森田のジャグリングの鮮やかさと馬の6個のイスを重ねた上での倒立が、いかにもサーカスらしかった。テントのサーカスでも命綱を付けることが多いのだが、今回は命綱なし。あとで聞くと、ふだん付けてないので、付けるとかえって難しいのだとか。そのサーカス芸もよかったが、演奏もよかった。ジンタらムータは変拍子の曲が多いが、今回は「マイ・フェイバリット・シングス」をはじめとするよく聞く曲ばかりを演奏したが、演技をよく助けていたと思う。こぐれみわぞうの歌もよかった。これだけの作品を作りながら、この催しだけというのは、もったいない。

さて、コロナのもとでの催しとすれば、検温だのアルコール消毒だのはあったものの、前年までとほぼ変わらない規模とテイストを保ったのには、すなおに脱帽です。しかし正直なところ、主催者はどれだけ神経をつかったのか。私が主催側にいたら、「こんなことやってられねえよ」と叫んでいたと思う。そのへんを踏まえて、政府はオンライン配信を盛んにすすめているのだろうが、生の芸能の魅力は、なにものにも代えがたい。現在の感染状況を考えると、コロナ禍はまだこのさき二、三年はつづくことになるだろう。そのあいだ、この緊張感で催しものをやるのか、そんなことできるのか、ウーム・・・。